

目 次

	(頁)
1 . 東山会関東支部発足総会に出席して	1
支部長 清水 義一 (昭和31年卒)	
2 . (総会講演録) 大学の近況について	2
名大大学院工学研究科教授 梅原 徳次氏 (東山会本部来賓)	
3 . (総会講演録) 植物バイオテクノロジー	5
元滋賀県農業試験場勤務 中井 昭彦氏 (昭和30年農学部卒)	
4 . 平成18年度支部総会報告	11
幹事 和田 滋憲 (昭和43年卒)	
5 . 同好会報告	13
(1) 「囲碁の集い」報告	
囲碁担当幹事 古澤 裕 (昭和32年卒)	
(2) ゴルフ同好会報告	
ゴルフ担当幹事 安田 幸伸 (昭和39年卒)	
6 . 平成17年度東山会関西支部会計並びに監査報告	15
会計幹事 山田 晃 (昭和33年卒)	
会計監査 安田 幸伸 (昭和39年卒)	
7 . 編集後記	16
8 . 平成19年度 東山会関西支部役員名簿	17

1 . 東山会関東支部発足総会に出席して

支部長 清水 義一（昭和31年卒）



さる5月12日(土)東京の学士会館において東山会関東支部の初の総会があり、発起人代表の方からのお誘いで出席させて頂きました。初の総会と言うものの、もともと1950～1960年代には関東支部が存在した時期があり、50年振りの再発足とも言えます。しかし、当時の関係者ではなく全く新しいメンバーで0からの出発である点で新生関東支部とも言えます。とにかく、この時期非常に意義のあることと考えますし、祝意を表すると共に今後のご発展と東山会関西支部との連携を心より願っております。

名古屋大学も法人化され、全学同窓会が活動を始め、全学同窓会関東支部、同関西支部、同遠州支部、同海外各地の支部と矢継ぎ速の発足で非常な盛り上げが図られています。これに対して各学部の従来のきたん会（経済学部）双葉会（工学部電気工学科）応化会（工学部応用化学科）東山会等共に協力していかなばなりません。この様な状況のなか東山会関東支部の発足が強く望まれていました。現在、東山会関東支部は1300名程のようですが、130名の方が総会に参加され関心の高さを感じました。勿論、平野名大総長、丹羽伊藤忠会長（全学同窓会関東支部会長）の講演参加があり、その効果も有ったと思いますが、平野総長、丹羽会長とも重要視されたから実現したことと思います。参加者の顔ぶれも新旧各年代に亘っていて退職OBに片寄った同窓会を見慣れた目には新鮮に感じられました。

卒業後51年を迎え「東山に帰る日」に参加したのですが、キャンパスのインフラ整備もさる事ながら高度化された技術研究に頼もしさを覚えました。

「ホーム・カミング・デイ」にもキャンパスを訪ねていますが、卒業生は勿論、一般の来場者にも大学の活動をPRしている姿勢に感銘を受けています。

この頃感じていることは、東山会関西支部活動も他の動きに対応していくことです。どう対応していくかは今後の課題ですが、皆様のご協力をお願いします。

2. 第 44 回東山会関西支部総会講演録

(H18 年 11 月 11 日)

テーマ : 「大学の近況について」

講演者 梅原 徳次氏

名大大学院工学研究科教授 (東山会本部来賓)



ご紹介いただきました名古屋大学の梅原と申します。私は先端材料・創製工学講座担当で昔の塑性加工の講座であります。加工を少しもったいつけて言ったのが創製工学です。本日はこのような伝統ある会にお招きいただきありがとうございます。

(キャンパス内の工学部建物の改修について)

まず、名大キャンパスの昨今を紹介いたします。工学部 3 号館は耐震補強され外からは立て直したかと思うぐらい立派になりました。大学は予算上、一度で改修できず少しずつ改修を進めています。工学部は現在、1、2 号館と 3 号館の半分の改修が終わりしました。7 号館まで今後 2 年に一棟ずつ改修していても、完了まで 10 年くらいかかりそうです。

(組織・人・予算について)

名古屋大学は 1939 年に名古屋帝国大学として創立、47 年に名古屋大学に改称し 04 年に国立大学法人になりました。組織機構上、我々大学教員は大学院に所属しており学部に進学に行くという形態です。国立大学法人名古屋大学は 04 年にスタートしましたが、事務処理など旧態依然でまだ煩雑さが残っています。今年 (H18 年) 5 月 1 日現在の人的規模は役員 8 名、職員 3341 名、学生数約 1 万程度です。独立法人化では財政の健全性が問われますが、平成 16 年度の財政規模は収入 1077 億円、支出は 1053 億円程度で、人件費が半分以上を占めます。名大は特許収入が多いのが特長で国立大学全体の約 9 割を名大が占めます。赤崎先生の青色レーザーダイオードの特許収入が 2 年前、約 2 億円で非常に恵まれていると思います。

06 年の地域別入学者は東海地区から 76.6% と最も多く、北陸甲信越から 6%、近畿から 5% です。名古屋地域は元気が良く、工学部では豊田系の会社などほとんど名古屋周辺に就職します。私は北海道出身ですが、工学部出身者はほとんど地元で就職できませんので名古屋は非常に恵まれた所だと思います。

名大の著名人では 01 年のノーベル化学賞受賞の野依良治先生がおられます。現在、野依先生は理化学研究所の理事長として日本の科学技術のために尽くされています。工学部では赤崎勇先生です。青色レーザーダイオード製作には、窒化ガリウムの良質な結晶を基盤上に安定成長させる必要がありますが、そのため低温バッフ

ァ層の導入を赤崎先生は発明し特許取得されました。85年、松下技研から名大へ戻られ、非常に有難いことに名大の特許として出願していただきました。この特許が2億円の莫大な収入を生み出しています。豊田講堂の時計の文字盤には夜になると青色ダイオードが煌々と光っております。青色レーザーダイオードではよく日亜化学の中村修一さんの名前が出ますが、中村さんの特許でも赤崎先生のバッファ層が使われています。この赤崎先生を記念してこの10月、赤崎記念館（6階建て）が機械系流体実験棟の横に建てられました。1階は日中、展示開放されています。赤崎先生の使われた窒化ガリウム結晶を作る装置や関連の展示が効果的になされています。赤崎先生は今、名城大学の教授ですが名大では特任教授です。名大での特任教授は野依先生と赤崎先生お2人だけで、ノーベル賞クラスの仕事が必要ということでしょう。

（教育システム、外部機関からの受賞について）

今の教育システムの特徴は4年一貫教育（1年次から専門教育）大学院重点化 流動型大学院システム（領域専攻群と複合専攻群）大専攻大講座制（従来の小専攻・小講座を再編）となっています。我々は系の機械理工学専攻と航空宇宙工学専攻に所属しています。機械理工学専攻では昔の機械学科は機械科学と機械情報システム工学分野が該当します。機械科学分野は先端材料・創製工学講座と環境・エネルギー工学講座に分けられ、機械情報システム工学分野は生体力学・人間機械工学講座とマイクロ・ナノ機械システム講座に分けられています。教授は13人、助教授、講師、助手も各13人です。ここ数年、外国も含め他大学から来た人が多く、私も2年半前に名工大から来ました。

昨年の後期から今年の前期まで1年間で、機械分野ではいろいろな外部機関から各種の功績に対し10件も賞を受けました。コンピューター外科学会、工作機械技術振興賞などなど多岐にわたります。

（高校生対象の体験講義の実施について）

高校生対象の模擬授業というものを行っています。多くの大学で実施されているようですが、名大工学部では「テクノサイエンスセミナー」という名称で講義を体験してもらいました。5年に1回担当となりますが、今年は機械工学の番で、愛知の多くの高校に声をかけ募集しました。100名近くの応募があったんですが、人数制限のため60名くらいを籤で選びました。講義のあと関連実験を行います。大学の模擬授業を受け、模擬実験をやってもらうということです。非常に好評で楽しかったようです。「名古屋大学に来てね」というと「是非とも来たいんです」と皆さんおっしゃいました。

(ホームカミングデイについて)

9月30日、とても天気の良い日でしたが全学同窓会との共催でホームカミングデイを開催しました。これは同窓生に名大に帰り見ていただきたいということなのですが、地域の方も多く参加していただいています。同窓生や学生の家族を中心に約4000名程度の方が参加されました。今年のテーマは「宇宙から未来へ」とし、宇宙飛行士の方にも参加していただいていた行いました。豊田講堂の前では沢山のテントが張られ、農学部附属農場の牛の肉や野菜などの農産物を販売しておりました。最近では名古屋大学ビール、同日本酒、同飴、同饅頭など名古屋大学グッズを販売していました。工学部各学科でもイベントがありました。学内は広いので無料シャトルバスを運行させご利用いただきました。

(最近のちょっとした話題)

話は少しそれますが国立大学初の学内コンビニストアというのが平成18年7月に教養部内に入りました。生協は大反対したのですが、生協食堂にもっとおいしいモノを出してもらいたいということもあるんだろうと思います。競合してもらっても良いのではないかと思います。

最近の話題では名大は相撲部が非常に元気があります。相撲部の道場は非常に立派です。国公立大学の相撲大会では確か5連覇か6連覇しています。そして名大工学部出身の力士が誕生して大いに話題となりました。化学系ですが名大工学部の学生が元舩田山の千賀ノ浦親方に弟子入りし力士になりました。TVのワイドショウなどはこれを取り上げました。また、中日スポーツが1面に載せましたが、四股名がなんと「舩名大(ますめいだい)」です。189センチ、体重111キロで昔の貴乃花以上の体重です。まだ23歳でどこまで伸びるか名大としては非常に楽しみです。

以上です。ご清聴ありがとうございました。

3 . 第 44 回東山会関西支部総会講演録 2

(H18 年 11 月 11 日)

テーマ : 「植物バイオテクノロジー」



講演者 中井 昭彦氏

元滋賀県農業試験場勤務 (農学部 昭和 30 年卒)

私は滋賀県立農業大学校の非常勤講師をこの 4 月に退職しましたが、1991 年までは滋賀県農業試験場に勤務しておりました。当時、農業が衰退して農業人口も減っていたこともあり、農水省としては生物工学を推進することで挽回しようとしたようです。それが私の農業試験場を辞める少し前頃からでした。滋賀農試としては、農家に解放された実験施設 (オープンラボラトリー) で、農家自身の手で実践してもらう方針で施設をつくりました。現在そこでは、農家自身が組織培養によりヤマノイモ、コンニャク、ササユリ、洋ランなどの増殖実験実習をしています。

退職後、この施設とかかわりを持つようになったのが、私が生物工学に関心を深める契機となりました。

バイオテクノロジー (生物工学) とは

バイオテクノロジーとは「生物自体あるいはそれが持っている機能を効果的に利用する技術」と定義されています。こう言えば農業も漁業もみんな入ります。しかし現在、バイオテクノロジーといえば、既存の農業ではなく、20 世紀以降の新技术を指しています。農水省の資料では、酵素・微生物の利用、遺伝子組み換え、組織培養など何でも入れているという感じです。例えば家畜の受精卵移植などが生物工学の中に入っていますが、異論もあります。予算獲得のための拡大解釈という感じもします。また別の定義もあります。たとえば、「生物の組織や細胞、遺伝子などを活用する技術で、遺伝子組換え技術をはじめ、細胞融合、組織・細胞培養、受精卵移植などを総称して使われている」など。もっと極端に「DNA(*)関係の技術だけ」という人もあります。

(*)デオキシリボ核酸：遺伝情報を担う物質

1953 年にワトソンとクリックという学者が DNA の立体構造モデルを発表しました。英国の「ネイチャー」誌にたった 1 ページの発表でした。これにより二人は 62 年にノーベル賞を受賞しました。この構造モデルはその後変更されていません。ずばり当たったわけです。それだけのデータが当時すでにあったということです。その後 DNA の研究は非常に盛んになり、73 年にはコーエンとボイヤーという二人の学者が遺伝子組み換えに成功しました。

その年のうちに 27 歳のスワンソンというベンチャービジネスマンがボイヤーを訪ねてきました。「10 分間の話」というのが何時間かになり、とうとう 2 人でジェネテック社を設立することになりました。そして 78 年に人間の遺伝子を組み込んだ遺伝子組み換え大腸菌でインスリンの生成に成功します。インスリンは糖の代謝をコントロールするホルモンで、糖尿病の治療には不可欠なものです。それまでインスリンは牛や豚からとっていましたから、より人間に適合するヒトインスリンの製造に成功したわけです。遺伝子組み換え技術の商業的実用化に、ジェネテック社がトップを切ったということです。当時その株価はウォール街で未曾有の暴騰をしたといわれ、一躍二人とも億万長者になりました。今まで商業的になんの価値もないと思われていた生物学の基礎科学が一躍大金を生む技術の元となり、ここで「バイオテクノロジー」という言葉が生まれたと言われています。バイオテクノロジー（生物工学）はその始まりから、DNA と切り離せない運命であったともいえます。

DNA 利用の技術

DNA はどこにあるか。人間では約 60 兆個の細胞がありますが、この細胞に核というものがあ、DNA という物質はそこにあります。一つ一つの細胞の DNA に人間を作る設計図のすべてが入っています。遺伝子とは DNA 全部を言うこともあり、その一部をいうこともあります。DNA はリン酸が連なって出来たらせん状の鎖にシトシン、アデニン、チミン、グアニンという塩基が配置されています。つまり遺伝情報はこの四つの文字で書かれているのです。

DNA を軸とした技術は 3 つほど考えられます。

一つは遺伝子組み換え技術です（後述）。

二つ目はクローン増殖。同じ遺伝子型をもった生物体をクローンといいます。例えば挿し木、双子はクローンです。クローン増殖ではすべて同じものが得られます。挿し木、あるいは接木でクローンを増やすことができます。たとえば梨の「20 世紀」というのはクローンです。また植物の成長点付近の組織、0.3 ミリくらいを培養すると何千でも元の植物と同じ遺伝子型の植物を増やすことができます。これをメリクローンといいます。同形質の作物集団を効率的に増殖できる技術は農業にとってはきわめて有利です。暮れになると町に氾濫するシンビジュウムもこうして増殖されたものです。

しかし、お米の「日本晴」「コシヒカリ」等の品種はクローンではありません。近似的な遺伝子型を持った一つのグループ、これを品種として扱っているわけです。イネを交配してその子の中から優れた形質を持つ個体を選び、また播種します。親と違った個体がいくつも出来ませんがそれは除きます。代を重ねながらそれを繰り返していくと全体にそろっ

できます。この状態を「固定」したといいます。成員一つ一つの遺伝子型は違うけれども、実用的にはひとつの種類として扱える「品種」が成立したのです。これはクローンではありません。

三つめは最近問題の ES 細胞（胚性幹細胞）の利用です。人間も牛もたった一つの受精卵という細胞が分裂し、人間なら何十兆という細胞で人体が出来上がります。DNA がどのようにして生体を作り、その行動を規定するのか。それは今、最先端の研究テーマのひとつでしょう。この研究が進めばどういうことが可能になるのでしょうか。ES 細胞は受精卵分裂開始直後の、なんにでもなれる未分化の細胞です。これを利用して、人体の部品交換や部品の再生が期待されています。

遺伝子組み換え技術と応用作物

以前、新しい品種は交配によって作りました。これでは母方と父方の遺伝子の全部が関与するので、欲しくない遺伝子も混ざってきて、おいしいとか病気に強いなどの良い品種が得られるまで長時間かかりました。遺伝子組み換えでは例えば病気に強い遺伝子を直接入れることで品種改良が出来ます。しかし、生物は自分の性質を守ろうとする力が非常に強いので、外からの遺伝子は簡単には入れません。DNA の仕事をしている私の農学部同窓生が「運が良けりゃ」とか言っていました。かなり大変なことだと思います。

遺伝子組み換え方法はいろいろ考えられていますが、要するに組みこみたい遺伝子を植物の細胞に押し込むことにつきます。遺伝子を入れた細胞を取り出して、たった一つの細胞から増殖させ成体に育てます。動物では出来ませんが植物はたった一つの細胞を成体にまで育て上げることが出来るのです。

どの生物種の遺伝子も、母親と父親から来た 2 セットの DNA で成立しています。1 セットの DNA にはその種の生活を全部コントロールするすべての情報が入っており、このセットを「ゲノム」と言います。遺伝子組み換えで DNA の鎖の所々にある遺伝子のいくつかを変えたり付加したりすることはできますが、ゲノムの構造を変えることはありません。ゲノムを変えるということは、たとえばトマトがトマトでなくなることです。現在の技術では、ゲノムの基本的な構造を変えることは出来ません。遺伝子組み換えでモンスター、つまり「フランケン植物」なんてものは絶対出来ません。どうも怪獣が出てくると思っている人がいるようですが、わずかなことしか付け加えられないということです。

現行の遺伝子組み換え作物

除草剤ラウンドアップの影響を受けない遺伝子を持った作物が育成されています。除草剤ラウンドアップ（モンサント社製）の有効成分はグリホサートという化

学物質ですが、植物独特のアミノ酸合成酵素の一つを阻害し、動物には全然影響がなく、土壤中ですぐに分解します。無選択性除草剤で何でも枯らしますが、動物に対する毒性は食塩より低いといわれるくらいです。日本でも大量に使われています。この作物を栽培し、ラウンドアップを処理すれば雑草は枯れて作物は残ります。アメリカで栽培されている大豆の 80%以上がこの遺伝子を持っています。効果としてはまず除草剤の散布回数や散布量が減ります。除草のための中耕の必要がなくなり、土壌の流亡も少なくなります。収穫物に雑草の種子の混入も減ります。

もう一つは害虫抵抗性の作物。土壌微生物にバチリス・チューリングエンシスというのがあり、これは昆虫に毒性を示すタンパク質 (Bt タンパク質) をつくる遺伝子をもっています。昆虫の消化器官はアルカリ性でそこで毒性を発揮します。動物の胃の中は酸性なので昆虫だけに効きます。その Bt 物質合成遺伝子を作物に組み込んだのです。これで害虫の被害が減り、殺虫剤の使用回数、量も減りました。しかもその作物を喰害しない虫は死にません。また薬剤散布のできない根の害虫も殺すことが出来ます。ただ花粉にも毒性があり、一時期問題になりましたが、花粉が出る時期は限られていますし、大量の花粉尘が出ない限り問題はほとんどありません。現在これも広く普及しています。

遺伝子組み換え農作物と言っても除草剤耐性と害虫抵抗性をもつものが大部分です。2005 年のデータでは使用栽培面積ではダイズが一番大きくトウモロコシ、ワタ、その他という順です。国別では米国が圧倒的に大きい。アルゼンチン等南米でもかなり栽培されています。カナダ、中国でも増えています。最近ではインドもかなり使っています。ヨーロッパは慎重でしたが最近徐々に使われています。米国では 2005 年でダイズの 87%、トウモロコシで 52%、ワタで 72%が遺伝子組み換え作物です。ナタネではカナダでよく使われています。2003 年のデータでは除草剤耐性のダイズが 87%で害虫抵抗性は少ない。トウモロコシでは害虫抵抗性が一番で 25%、除草剤耐性が 11%、4%が両方の性質を持っています。ワタは除草剤耐性が最も多い。害虫抵抗性が 4%、両方持っているのが 23%です。

遺伝子関連特許と課題

ここで問題になっているのが遺伝子特許です。ある遺伝子を発見し 4 つの塩基配列と機能を明らかにすれば特許がとれます。南米のある地域でトウガラシ、トマト、ジャガイモやトウモロコシなどいろんな遺伝子が探索され採取されています。しかしそれは南米のある地域のものではないか。構造が分かったから俺の特許だというのは勝手過ぎるのではないか。これらの農作物はその地域の農民が何千年かけて作った成果だ。その成果を勝手に特許だというのはけしからんじゃないかという抗議が起こっています。

遺伝病の原因遺伝子も最近明らかになってきています。しかしその診断や治療のために多額の特許料を払うことになれば、貧乏人は困るのではないか。こういう遺伝子には特許を認めるべきではないという意見もあります。もちろん反論もあり、米国モンサント社は開発に 300 億ドル以上かけたので、その回収が必要だから儲からなくては困るといっているようです。妥当な特許料ならばという意見もあります。その後どうなったのでしょうか。

もう一つ、種子の特許について触れます。例えば、野菜の種子を買います。次からは自家採種の種子をまく。それでは種子業者は儲からない。そこで種子を供給する会社は一代交配種というものを考え、第二代以降は期待の品質が保証されないものを出しました。従って種子は毎回買わざるを得ないことになります。しかし種子そのものには特許はありません。タキイ種苗は一代交雑で白菜や大根の種子で大きな成果をあげました。しかしその種子には特許はありません。米国のモンサント社は自社の特許遺伝子を組み込んだ作物から自家採種した種子を播くことを禁止しています。

花粉の飛来やこぼれ種によって畑に除草剤耐性のナタネが混ざった農家に対し訴訟が起こされています。カナダのあるナタネ栽培農家が遺伝子組み換えのナタネを勝手に栽培しているとモンサントから訴えられました。農家は隣の遺伝子組み換えナタネの種子や花粉の飛んできた結果で、訴えは無効だと主張しました。裁判所は、そうであっても自分の畑にラウンドアップ耐性のナタネが生えていることを知っていたからには違法であると結論しました。結局、訴訟は農家の負けとなりました。しかし農家が除草剤耐性による何の利益も受けていないということで、損害賠償や訴訟費の支払いは不要ということになりました。これは遺伝子組み換え作物の栽培拡大に伴って、今までなかったトラブルの起こることを示唆しています。また、有機栽培農家は、遺伝子組み換え作物から種子や花粉が飛んできてくることは、有機栽培に対する「汚染」と考えていますが、ここでも新しいトラブルの発生が考えられます。

今後の課題

遺伝子組み換えによる作物の改良は今後どうなるのでしょうか。交配での遺伝子組み換えによる作物の改良は長年やって来ました。そのラインのうえで遺伝子組み換えを使って作物の改良を効率化することは、私は問題ないと思います。すでに納豆、豆腐では遺伝子組み換えでないといいながらかなり混入しています。味噌、醤油では遺伝子組み換えの表示の義務はありません。油はタンパク質を落としていきますので問題はありません。今後問題になりそうなのは、植物に何か特異な物質を作らせようとする動きです。これは作られるものによっては非常に厄介なことになり

そうです。また非常に異常な環境の微生物の遺伝子を利用しようという考えがあります。火山や深海の高温の温泉、極地の氷の中などに住む微生物がその対象です。これらを開放系で扱うのはきわめて慎重でなければならないと思います。

今後交配であろうと遺伝子組み換えであろうと作物の品種改良が進み、効率化の名の下に、少数品種の大栽培が普及して遺伝子が失われていくことが予想されます。遺伝子組み換え技術がいかに進歩しようとも遺伝子を人為的に作ることは出来ないので、現存の遺伝子の保全是きわめて重要です。そういう中で有機農業は在来の失われていく遺伝子の保全に大きな働きをしていると思います。世界中で毎日植物や動物が絶滅しています。種の絶滅はいままでずっとあったわけですが、これがさらに輪をかけることがないよう努力していかなければならないと思います。

4 . 平成 1 8 年度東山会関西支部総会報告

幹事 和田 滋憲 (昭和 4 3 年卒)

第 4 4 回となる関西支部総会は、平成 18 年 11 月 11 日 (土) [15 時 ~ 19 時 10 分] 中央電気倶楽部で開催されました。

参加者は当支部会員 20 名のほか、東山会から会長の水野清史様、名大教授の梅原徳次様、異分野講演をお願いした中井昭彦様 (S30 農学部卒) をお迎えし、次の通り行われました。

講演会 15 時 ~ 16 時 35 分 (司会 : 荻原幹事 S 43 卒)

総会 16 時 35 分 ~ 17 時 15 分 (同 : 青山副支部長 S 32 卒)

懇親会 17 時 30 分 ~ 19 時 10 分 (同 : 荻原幹事 S 43 卒)

以下その各概要を記載します。

1 . 講演会

(1) 講演 1 「大学の近況について」

名古屋大学大学院 教授 梅原 徳次氏 (東山会本部)

講演の内容は当支部報内 2 . を参照

(2) 講演 2 「植物バイオテクノロジー」

滋賀県立農業大学校非常勤講師 中井 昭彦氏 (農学部 S30 年卒)

講演の内容は当支部報内 3 . を参照

2 . 支部総会

(1) 支部長挨拶 清水支部長 (S31 年卒)

- ・来賓の水野東山会会長、梅原教授、中井先生と本日の総会出席者への謝辞
- ・先日の名大ホームカミングデイに参加し、最近の技術は様々な技術が融合されるなど急速に変化していると思った。支部総会も機械という範囲の同窓だけが交流してきたが、幅広くいろいろな人との出会いを作る必要がある。そういう意味で今日は全学同窓会でのつながりで農学部出身の中井先生に来ていただき話しをお聞きした。
このように他学部や学科等と交流する中でまた新しい東山会が出来ていくのではないかと最近感じている。
- ・全学同窓会などの参加者を募る上で人のつながりや会社ごとに何か横のつながりを期待できないか検討していこうと考えているが、何か良い知恵があったら提供して欲しい。

(2)東山会本部代表挨拶 水野 清史氏
(東山会会長、アイシン精機常勤監査役：38年卒)

- ・3年前に東山会会長に就任したこと等、自己紹介
- ・本部近況
東山会会員は4000名強、有支援会員1000名ほど
会計財政状況で赤字続いた：名簿発行をやめて広告収入がなくなった
* 基本的には郵送はやめ 原則HPを使う、高齢者等100名程度は実費で郵送
* その後縮小均衡で財政は好転
「東山へ帰る日」の開催：卒業50年を対象、6月初め24名参加
東山会イブニングサロンの今年から開催：企業と大学の接点構築
* ワインを片手に懇談、若手会員の講演と懇談
- ・関西支部総会はアットホームで感じるところが多かった。

(3)会計報告・同監査 山田会計幹事(S33年卒)

- ・会計報告は当支部報6 参照
繰越額が少し増加
会費入金は今年度から振込み手数料は支部が負担(100円)
会報作成・発送費用では会報制作上の手違いで回収し費用増加
年会費支払い者は増加
- ・会計監査幹事は都合で欠席したが、承認を得ている。

全員の賛同で会計承認

(4)一般報告 深谷副支部長(S34年卒)

- ・資料別紙
支部役員会概要
役員の交代：野崎利雄氏退任、安田幸伸氏新任
支部便りの再発行について
総会案内状等会員への通信と出席状況等について
- ・次回総会の11月開催予定

(5)写真撮影 参加者全員

3. 懇親会

ご来賓の水野氏、梅原氏、中井氏を交えて賑やかに行われた。

(1)乾杯 音頭は 白井良明氏(S39年卒)

(2)同好会報告 古澤幹事

- ・囲碁同好会、ゴルフ同好会：結果は当支部報5 参照

(3)懇親会、学生歌斉唱

(4)閉会の辞 青山副支部長

5 . 同好会報告

(1) 「囲碁の集い」報告

囲碁担当幹事 古澤 裕 (昭和 3 2 年卒)

平成 18 年 10 月から平成 19 年 6 月までの開催結果は次の通りです。

開催日	参加者数	優勝者	成績	備考
H.18.10. 7	8	古澤初段	4 勝 1 敗	2 段へ昇段
H.18.12. 2	6	深谷 4 級	3 勝 1 敗	
H.19. 2. 3	4	青山 5 段	2 勝 1 敗	
H.19. 4. 7	4	該当者なし		試合数極少
H.19. 6. 2	5	青山 5 段	2 勝 1 敗	

現在の参加者は 川口、松田、岩田、青山、鷲田、荻原、深谷、清水、古澤の各氏です。

会場は岩田氏のお計らいで中央電気倶楽部で偶数月の第一土曜日に開催しています。

ご希望の方は自由に参加下さい。一応昇段、昇級の規約を設けています。

対局模様



(2) ゴルフ同好会の報告

ゴルフ担当幹事 安田 幸伸 (昭和39年卒)

平成18年度に、野崎利雄さん (S39 卒) から、ゴルフ担当幹事を引継ぎしました。前任者同様よろしくお願いいたします。

平成18年度は10月19日 (木) 絶好のゴルフ日和のなか、交野カントリークラブで開催しました。残念ながら前年より2名減の6人2組で実施となりました。

参加者は田中さん (S28 卒)、野崎さん (S29 卒)、古澤さん (S32 卒)、山田さん (S33 卒)、安田さん (S39 卒)、和田さん (S43 卒)。

ダブルペリア方式で競技を行い、優勝はグロス90、ネット73.2の安田さんでした。

平成19年度も10月の月曜日 (日は未定) に実施する予定ですので奮ってご参加下さい。

申し込みは次のメールアドレス (安田) へ

Yuki0404@ric.hi-ho.ne.jp

6 . 平成 1 8 年度東山会関西支部会計並びに監査報告

会計幹事 山田 晃 (昭和33年卒)

会計監査 安田 幸伸 (昭和39年卒)

平成 1 8 年度東山会関西支部会計報告

期間：平成17年11月5日より平成18年11月10日まで

収 入	金額(円)	支 出	金額(円)
17年11月5日の総会会費 (7000円×20人)	140,000	17年11月5日の総会費用 電気クラブ	156,925
本部祝金	50,000	写真代	690
年会費(2000円×71人)	136,820	通信費	14,455
振込手数料差引き後の金額		総会案内制作費	33,617
預金利息	23	総会案内発送費	64,510
当年度の収入合計	326,843	会議費	9,086
		コピー,事務用品	7,425
		旅費他	5,215
		当年度の支出合計	291,923
前年度からの繰越金	547,205	次年度への繰越金	582,125
合 計	874,048	合 計	874,048

以上のとおりご報告いたします。

会計幹事 山田 晃



以上の報告は適正なものと認めます。

会計監査 安田幸伸



8 . 編集後記

国立大学も法人化され、名大も徐々に様変わりし始めていると思います。当支部報の2 .は東山会代表、梅原名大教授の講演「大学の近況」を掲載しました。名大における財政や大学の対外 PR 活動への取組みなど、従来の講演では重点とされなかったことが話題の中心となっていたように思いました。魅力ある大学作りに向けて皆さんががんばっておられるようです。

その梅原教授の講演の最後に、名大出の角界力士誕生の話題が提供されました。名古屋では中日スポーツなど華々しく記事にされたようです。彼の上位番付を期して応援しましょう。四股名は「舛名大」。

全学同窓会が設立され3年ほど経過します。その成果と言うと変かかもしれませんが、去年の支部総会に農学部出身の中井さんをお迎えし、「植物バイオテクノロジー」と題し異学部交流とも言える講演をしていただきました。非常に興味深い内容だったと思います。少し長いですが当支部報の3 .をご一読ください。

(W 記)

「関西支部便り」は文書による会員の交流の場です。会員の皆様のご寄稿をお待ちしています。内容や時期は問いません。よろしく願います。

寄稿される方は当誌次ページに記載の関西支部幹事 和田 滋憲 へ郵送またはメールでお送りください。

平成18年度東山会関西支部総会出席者写真氏名

青山信英	荻原稔蔵	伊藤敏哉	和田滋憲
鷺田俊司			
山田晃	古澤裕	野崎利雄	深谷修
	白井良明	齊藤禎夫	
白木博明	山本順一	前田芳郎	岩田恒雄
			田中洸
		松田保	工藤夫人
川口啓造	<small>東山会 会長</small> 水野清史	<small>講師</small> 中井昭彦	工藤廣
	清水義一		
		<small>教授</small> 梅原徳次	